vintagetechnics.ru

オートリフトアップ レコードプレーヤー

KP-700

取扱説明書

TRIO

お買いあげいただきましてありがとうございました。ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みの上，正しくお使いください。本機は日本国内専用のモデルですので，外国で使用することはできません。

アフターサービスについて

1．**保証書**—この商品の保証書は別途添付しております。必ず所定事項の記入および記載内容をご確認いただき大切に保存してください。

2．**保証期間**—お買い上げの日より**1年間**です。正常なご使用状態でこの期間内に万一故障を生じた場合には，保証書の記載内容によりお買上の販売店またはトリオの営業所が**無料修理**いたします。

3．**保証期間経過後**の修理についてはお買上げの販売店またはトリオの営業所にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合にはお客様のご要望により**有料修理**いたします。

4．本機の補修用性能部品の最低保有期間は製造打切後8年間です。性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。

5．なおアフターサービスについて，ご不明な点はお買上げの販売店またはトリオの営業所にご遠慮なくご相談ください。

※　ダンボール箱は，アフターサービスや引越しの際大切な機器を保護するために是非保管し，ご利用ください。

設置場所について

ベスト・コンディションでお使いいただくために，つぎのことにご注意ください。

●水平で外部からの振動がない，安定した場所に設置してください。

●直射日光の当たる場所や，暖房器具などの発熱物の近くは避けてください。

●極端に寒い（水が凍るような）場所では十分な性能が発揮できないことがあります。

●ホコリや湿気の多い場所や，通風の悪い場所は避けてください。

●スピーカーボックスからできるだけ離したほうが，ハウリング対策上有利です。

各部の名称

- 段ボールを開けましたら，組立てる前に下図を参照しながら，各部品が全てそろっていることを確認してください。
- 包装材は再輸送時のために，できるだけ保存しておいてください。
- 組立て順序は3ページに従って行ってください。

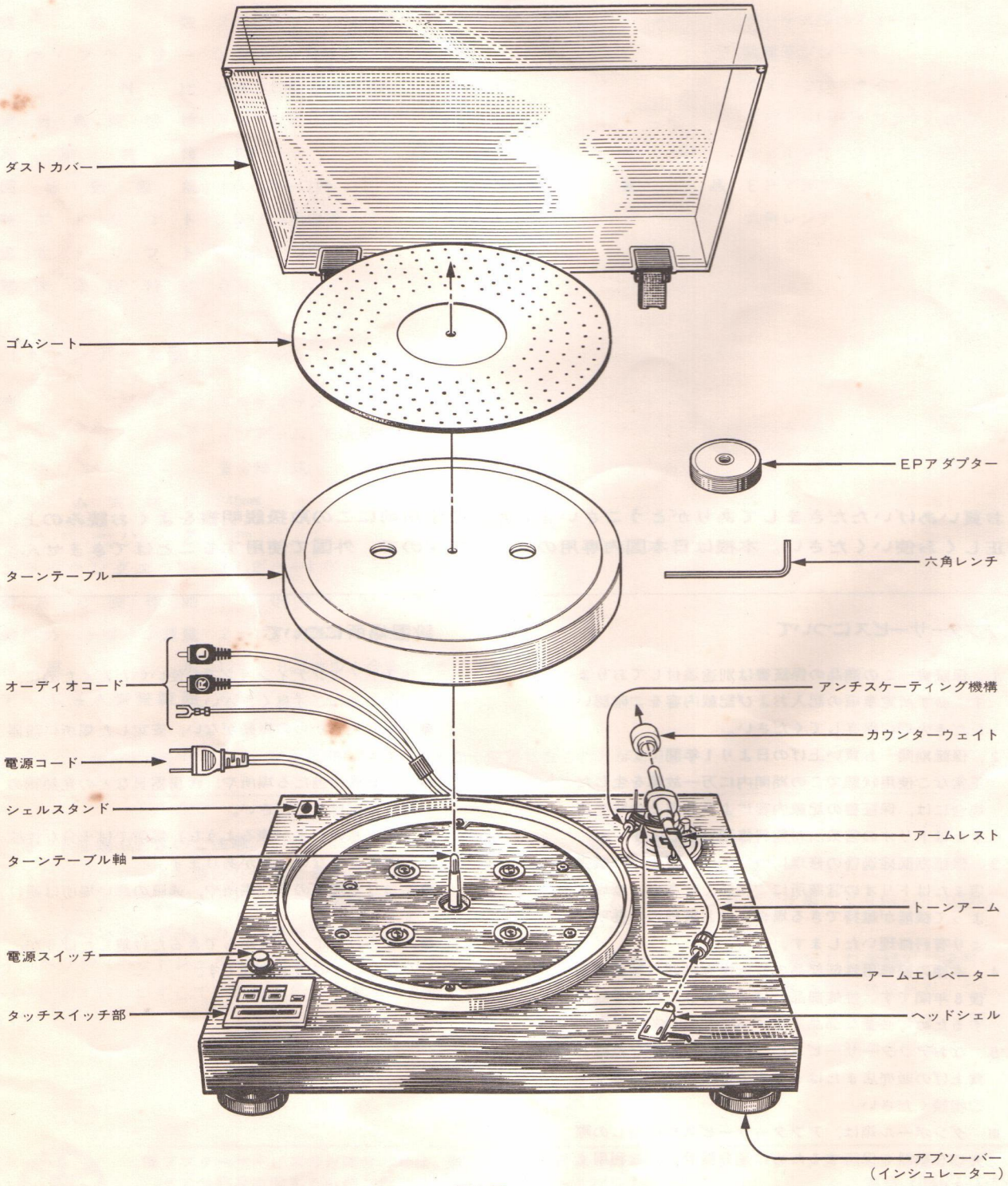
- 部品箱には，次の各部品が入れてあります。

  ヘッドシェル(ヘッドシェル本体＋取り付けネジ【10㎜2本】＋ワッシャー2個＋ナット2個，取り付けネジ【15，20㎜各2本】)

  ＥＰアダプター

  カウンターウェイト

  六角レンチ



第1図

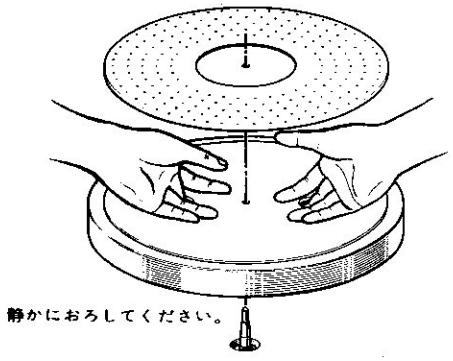
組立て順序 ■番号順に組立てをおこなってください。

①プレーヤーの設置

まず，何もつけない状態で設置場所に置いてください。このとき，4個のアブソーバーは軽く右に回しきった状態にしておいてください。設置場所については，表紙の“設置場所について”を参照してください。

②ターンテーブルの取り付け

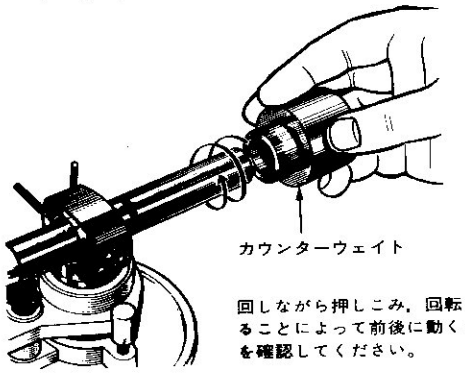
ターンテーブルを静かに軸にさしこみます。ターンテーブルは重いので，軸受けをいためないように，まっすぐ，静かにおろしてください。そのあとゴムシートをターンテーブルにのせてください。



第2図

③カウンターウェイトの取り付け

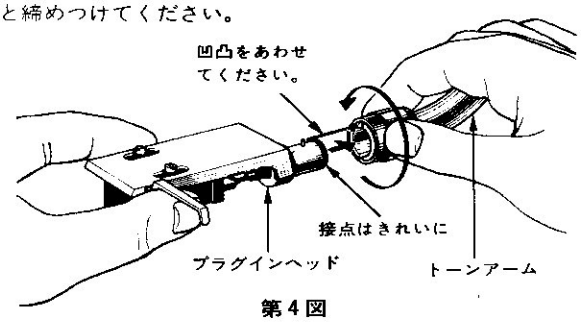
カウンターウェイトをトーンアーム後部に回しながらさしこんでください。



第3図

④プラグインヘッドの取り付け

カートリッジを取り付けたあと，下図のようにしっかりと締めつけてください。

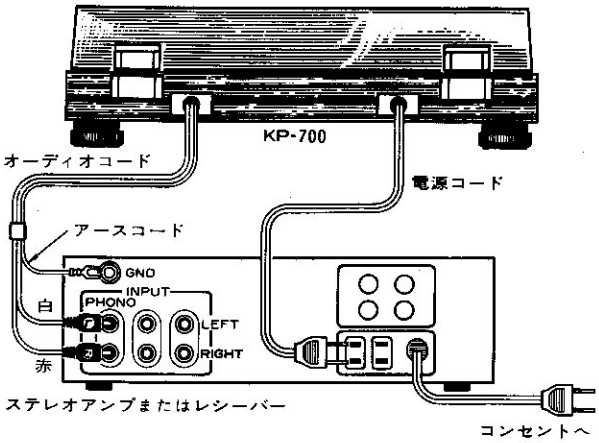


第4図

⑤電源コード，オーディオコードの接続

電源コードを家庭用のコンセント，またはアンプのACアウトレットに接続してください。

オーディオコードは，アンプ側のPHONO端子に，アースコードはGNDまたはE端子に接続してください。(アンプの電源はOFFにしてコードの接続を行ってください。)

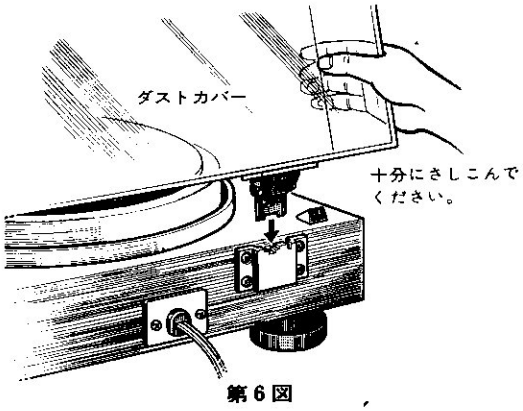


第5図

ご注意：低出力MCカートリッジ用の単体ヘッドアンプをご使用になる際は，KP-700のアースコードをヘッドアンプのGND(またはE)端子に接続してください。ステレオアンプ（またはレシーバー）のGND端子に直接接続しますとハム音を生ずることがあります。

⑥ダストカバーの取り付け

下図のように，ダストカバーのヒンジをキャビネット背面のヒンジ受に差し込みます。

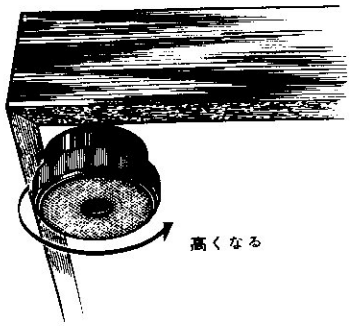


第6図

カートリッジの取り付け方

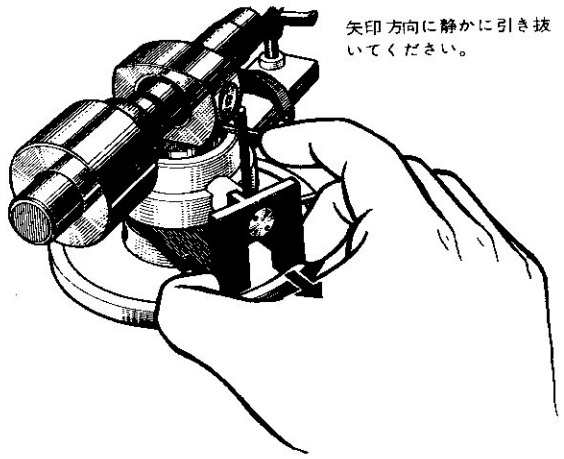
⑦セットの水平調整

ダストカバーを閉めた状態で，セットが水平になるように4個のアブソーバーで高さの調整をしてください。



第7図

※トーンアームの保護用プラスチックを，ご使用前に取り外してください。



第8図

ご注意：プラグインヘッドの着脱は，トーンアームをアームレストに完全にロックして，アンプの出力を0にしておくか電源スイッチを“OFF”にしてから行ってください。また，トーンアームに無理な力を加えないようにご注意ください。

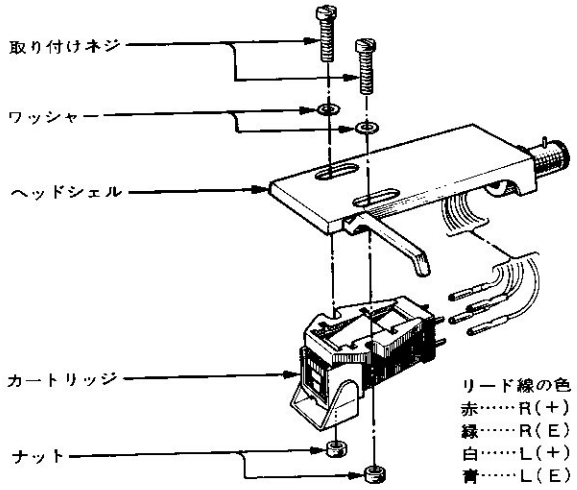
●本機はカートリッジを付属していませんので，お好きなカートリッジをお買い求めのうえ，**第9図**を参照して取り付け・接続を行ってください。

オーバーハング（カートリッジ取り付け位置）の調整は**第10図**の寸法と照らし合わせて取り付けネジで位置調整をしてください。この場合カートリッジはヘッドシェルに対してまっすぐ，平行になるようにご注意ください。

●EIA規格に準じたヘッドシェルであれば，本機にそのままご使用になれますが，音質の点でも良く考慮されたものをお選びください。

別売りヘッドシェル　HS-71

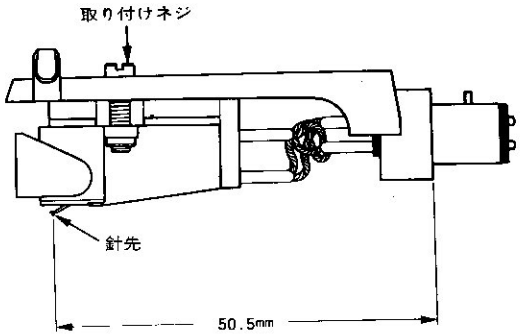
●カートリッジ，ヘッドシェルの重量は製品によって様々に異なります。本機の場合は，カートリッジとヘッドシェルの重量合計が14～24グラムのものまで使用できます。



第9図

●取り付けネジは，3種類のものが付属されていますので適当な長さのものを選んでご使用ください。

●低出力のMCカートリッジやその他の特殊なカートリッジをお使いになる場合，アンプとの接続についてはそのカートリッジの取扱説明書をお読みください。



第10図

トーンアーム関係の調整

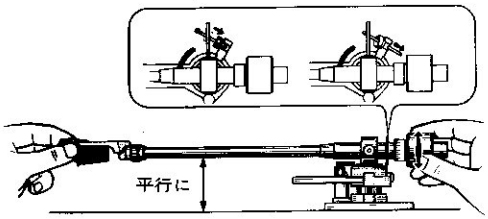
■本機の各部分は精密加工されておりますので，各種の調整は注意深く行ってください。
■トーンアーム関係の調整時には，アンプの出力を0（最小）にしておいてください。

①針圧調整のしかた

1．電源スイッチを入れてから，スタート／ストップスイッチに触れます。プレイ状態となり，アームエレベーターが降下します。

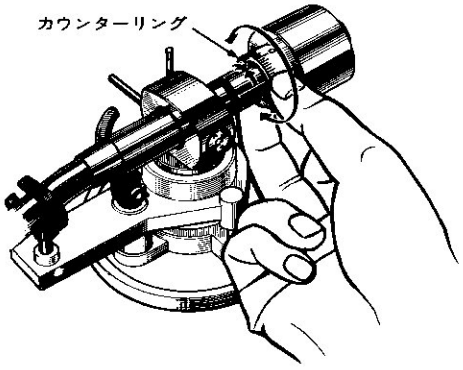
2．アンチスケーティング機構のウェイトを1グラムの位置にして，バーを「フリー」状態にセットします。

3．トーンアームをアームレストから解放します。ヘッドシェルの指かけ部を軽くささえ，トーンアームをアームレストとターンテーブルの中間に移動させます。そして，そのままヘッドシェルを軽くささえながらカウンターウェイトを左右に回し，トーンアームが水平にバランスするように調整します。



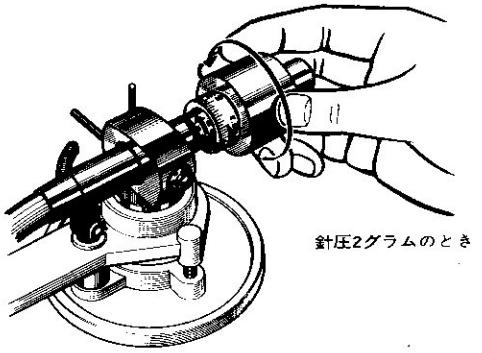
第11図

4．トーンアームをアームレストにもどし，カウンターリングのみを回して“0”に合わせます。



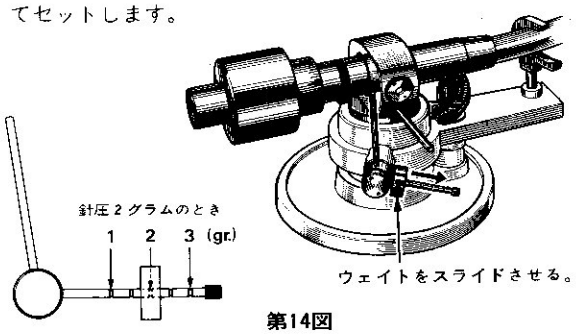
第12図

5．カウンターウェイトを右に回して，ご使用のカートリッジの適正針圧値に合わせます。



第13図

6．つぎにアンチスケーティング機構を，針圧値に合わせてセットします。



第14図

7．スタート／ストップスイッチに触れてターンテーブルの回転を止めてください。

②トーンアームの高さ調整

1．まずターンテーブルにレコードをのせてください。

2．電源スイッチを入れてから，スタート／ストップスイッチに触れます。アームエレベーターが降下してから，針先を静かにレコード盤上におろしてください。

ご注意：アームエレベーターはプレイ状態のとき，降下します。

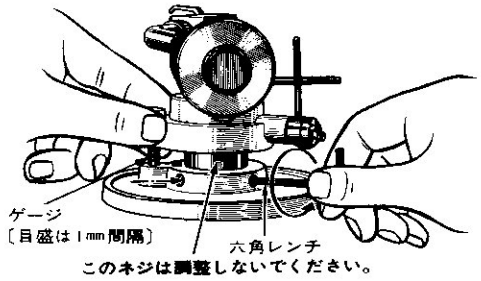
3．レコード面とトーンアームパイプの水平状態を横から目で見て，軸受部が高いか低いかを調べてください。

4．トーンアームをアームレストにもどし**第15図**のように，左手でアームベース部をしっかりと支えながら付属の六角レンチでトーンアーム高さ調整ネジ2本をゆるめます。

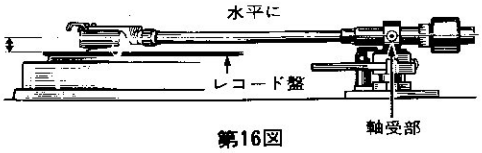
5．アームベース部のゲージ【目盛は1㎜間隔】を目安にして，トーンアームが水平となるように高さの調整をし，調整ネジ2本をしっかりとしめつけます。

6．再度針先をレコード盤上におろして，水平状態を確認してください。（水平でない場合は，4～5項を繰り返し行ってください。）

7．最後にスタート／ストップスイッチに触れてターンテーブルの回転を止めてください。



第15図



第16図

レコード演奏のしかた　保守について

① 針圧調整，スピード調整，アンプとの接続およびアンプ側の各ツマミ類の位置が適当か確認してください。

② 電源スイッチを入れます。タッチスイッチ部の33⅓回転を示す【33】スピードインジケーターが点灯します。

③ レコード盤をターンテーブルにのせます。EPレコード（ドーナツ盤）の場合は，付属のEPアダプターをご使用ください。

④ 45回転のレコードの場合には，45回転スピードスイッチに触れます。【45】スピードインジケーターが点灯します。

⑤ トーンアームをアームレストから解放し，ヘッドシェルの指かけを持って針先をレコード盤上のスタート位置まで移動します。

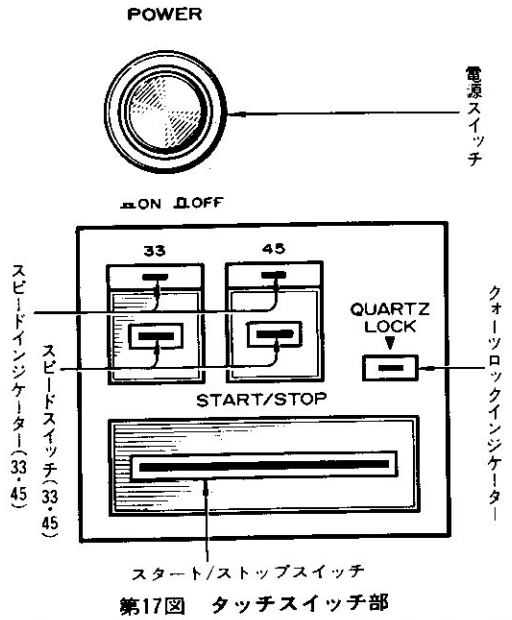
⑥ スタート／ストップスイッチに触れます。ターンテーブルが回転し，定常回転になると同時にクォーツロックインジケーターが点灯します。同時に針先が静かにレコード盤上におりて，演奏が始まります。

⑦ レコード演奏が終ると，アームエレベーターが自動的にトーンアームを持ち上げ，針先はレコード盤から離れます。そののちターンテーブルの回転も止まります。

⑧ トーンアームをアームレストに戻してください。最後に電源スイッチを切ってください。

●演奏途中で演奏をやめてしまいたい場合，または途中で止めておきたい場合には，スタート／ストップスイッチに触れてください。自動的にトーンアームが持ち上がります。再度演奏を開始するときには，再度スタート／ストップスイッチに触れてください。針先が静かにレコード盤上におりてほぼ同じ位置から演奏が再開されます。

●電源スイッチを入れた直後の数秒間は回路動作が不安定な場合がありますので，操作スイッチ類を操作することは避けてください。



第17図　タッチスイッチ部

● **針の寿命と交換**

針先は非常に繊細にできていますので，お取扱いには十分ご注意ください。針先のゴミは柔らかいブラシ等で軽くとりさってください。

針の寿命はLP30cm盤で500面くらいとされていますが，使用状態などで大幅にちがいます。針先が摩耗してくると高音が荒い感じになり，ひずみ感が増し，またレコード盤をいためる原因となります。そうした場合にはすみやかに針を交換してください。

● **レコード盤の取扱い**

レコード盤を持つときは，音みぞに指先がふれないようにしてください。音みぞに指紋がつきますと，そこにホコリやゴミが付きやすくなります。

レコード盤にホコリやゴミが付着したまま使用しますと，雑音の原因や，レコード盤や針の摩耗の原因になりますので，演奏前に良質のレコードクリーナーでよくふくようにしてください。

なお，レコード盤の保存は，直射日光，発熱物，ホコリ，湿気を避けて，積み重ねないで縦に並べるようにしてください。保管方法が悪いとレコード盤のソリや変形の原因になります。

● **セットの清掃**

ケース，カバーなどの清掃は乾いた布，またはシリコンクロスなどの柔らかいもので軽くふいてください。特によごれがひどいときには，電源プラグをぬいた後，石けん水にひたした布をかたくしぼってふいてください。

シンナーやアルコール，ベンジンなどの揮発性液体でのお手入れは絶対に避けてください。

● 本機は直流モーター使用ですので，電源周波数に影響されず，50，60ヘルツ地域どちらでもそのままご使用になれます。

● **注油について**

本機のモーターは注油の必要はありません。

●本機のタッチスイッチ部は，2個の電極間を指でふれることによって動作しますので，手袋をしているときや絶縁物でさわったときには動作しないことがあります。

また，電極間のわずかな汚れ（ゴミの付着，水滴等）をも敏感に感知し，動作しますので，ご面倒ですが，乾いた布（シリコンクロス）等にて定期的にタッチスイッチ部電極間のクリーニングを行ってください。

ご注意：アンプやレシーバーのパネル等に手を触れたまま，本機のタッチスイッチを操作いたしますと，アンプ，プレーヤーと身体の間における全体アースがとられて，本機が正確に動作を開始しないことがあります。スイッチ操作は個々に行ってください。

故障？その前にちょっとお調べください

意外な操作ミスが故障と思われることがよくあります。アフターサービスを依頼する前に，まず次の事項をチェックしてみてください。また，プレーヤー以外の原因も考えられます。ご使用のステレオアンプ，スピーカーおよびその他のオーディオ機器と合わせてお調べください。下記の項目をチェックしても直らない場合は，表紙の「アフターサービスについて」の項をお読みのうえ，修理を依頼してください。

症　　状	原　　因	処　　置
電源スイッチを押しても，スピードインジケーター（33）が点灯しない。	1.電源プラグがはずれている。 2.ステレオアンプの電源スイッチがONされていない。（アンプのACアウトレットSWITCHEDに電源プラグをつないだ場合）	1.電源プラグを確実にACコンセントへ差し込む。 2.アンプの電源スイッチをONにする。
針先がレコード面に降りても音が出ない，または音が小さい。	1.プレーヤーの出力コード（オーディオコード）の接続が不完全。 2.ヘッドシェルコネクターの接続不良。 3.カートリッジのリード線の接続が不完全。 4.アンプのファンクションがPHONOまたはPHONO MCになっていない。 5.プレーヤーの出力端子やアンプの入力端子の汚れ。 6.アンプのボリュームが絞られている。またはアッテネーターがかかっている。	1.プレーヤーの出力端子（ピンプラグ）を確実にアンプのPHONO端子へ差し込む。 2.ヘッドシェルをトーンアームに確実に差し込む。 3.確実に接続しなおす。（4頁参照） 4.ファンクションを正しくPHONOまたはPHONO MCにセットする。 5.汚れをシリコンクロス等で拭き取る。 6.ボリュームを適当な位置にセットする。またはアッテネーターを解除する。
カートリッジの腹がレコード面に接触する。	1.針圧が重すぎる。 2.トーンアームの高さが不適当。	1.適正針圧に再調整する。（5頁参照） 2.トーンアームの高さを正しく調整する。（5頁参照）
再生音が歪んだり，音とびする。または“チリチリ”“パチパチ”といったノイズがでる。	1.プレーヤーが水平でなく傾いている。 2.針先にホコリなどが付着している。 3.針先が摩耗している。 4.レコード盤自体がそっていたり，キズで痛んでいる。 5.レコード盤にホコリやゴミがついている。 6.針圧が軽すぎるか重すぎる。 7.カートリッジの取り付けが曲っている。 8.アンチスケーティングのかけすぎ。	1.水平に設置し直す。 2.針先を針先掃除用ブラシできれいにする。 3.新しい針先と交換する。 4.レコード盤を交換する。 5.レコード盤を清掃する。 6.使用カートリッジの適正針圧に再調整する。（5頁参照） 7.曲りを修正する。 8.使用カートリッジに合った値に再調整する。（5頁参照）
再生音がふるえたり，ハウリング（ボワーンという音）が起きる。	スピーカーからの振動がプレーヤーに伝わり共振している。	プレーヤーとスピーカーの間を離すか，両者をもっと安定したしっかりした場所に置く。
“ブーン”というハム音が入る。	1.出力コード（オーディオコード）やアース線の接続が不完全。 2.アンプのパワートランスなどの磁束もれの影響を受けている。 3.ヘッドシェルコネクターの接触不良。 4.その他の原因。	1.確実にアンプのPHONO端子やGND（またはE）端子に接続する。（3頁参照） 2.アンプとプレーヤーの位置をかえてみる。 3.ヘッドシェルをトーンアームに確実に取り付ける。 4.オーディオコードの位置をかえてみるか電源コードの差し込みを逆にしてみる。

定　格

〔フォノモーター部〕

駆動方式	ダイレクトドライブ
モーター型式	クォーツPLLコアーレス，スロットレスDCサーボモーター
起動トルク	1.5kg・cm以上
ターンテーブル	330mm径 1.9kg アルミ合金ダイカスト製
慣性モーメント	450kg・cm²（ゴムシート含む）
回転数	2スピード…33⅓，45rpm
ワウ・フラッター	0.025%(W.R.M.S)以下
S／N比	75dB（DIN-B），62dB（JIS）
定常負荷特性	0%（針圧 120gまで）
起動特性	2.2秒
回転数偏差	±0.003%以内
時間ドリフト	0.0005%/h以下
温度ドリフト	0.00005%/℃以下
電源電圧特性	0%（±10V）

〔トーンアーム部〕

型式	スタティックバランス方式S字型パイプアーム，EIA規格プラグイン質量分離方式
アーム実効長	245mm
オーバーハング	15mm
トラッキングエラー	+1.8°～−1.0°
針圧可変範囲	0～3.0g(0.1gステップ)
適用カートリッジ重量	2～12g(付属シェル使用時)
付属シェル	12g アルミニウム合金ダイカスト製
アーム高さ調整範囲	6mm

〔総　合〕

電源	AC100V，50/60Hz
消費電力	14W
寸法	490(幅)×173(高さ)×409(奥行)mm
重量	13.8kg
付属機構	オートリフトアップ機構 スタティック型アンチスケーティング機構 タッチ式操作スイッチ 純電子ブレーキ クォーツロックインジケーター スピードLEDインジケーター シェルスタンド(スラントタイプ)
付属品	EPアダプター 六角レンチ

これらの定格およびデザインは，技術開発に伴い，予告なく変更になることがあります。

● セットを運ぶときのご注意

転居などで，セットを運搬なさるときには，購入時の包装材で正しく包装してください。包装材がないときでも，**ターンテーブル，カウンターウェイト，プラグインヘッド（ヘッドシェル＋カートリッジ），ダストカバー**は必ず取りはずして，別梱包のうえ運んでください。

● 定期点検のおすすめ

ふつう機械類を長い間，手入れをせずに使用しますとどうしても摩耗，劣化等により何らかの故障が起こりやすくなります。

本機を長持ちさせ，安定した状態でご使用いただくために，できれば2年おき位に故障がなくても，定期点検をお受けになるようおすすめします。定期点検は，購入店または最寄りのトリオ商事各営業所，サービスセンターにご依頼ください。

TRIO

■アフターサービスのお問合わせは，購入店または最寄りの当社サービスセンター，営業所をご利用ください。
その他商品に関するお問合わせは，お客様相談室をご利用ください。　電話（03）477-5515

■トリオ株式会社／トリオ商事株式会社
本　社　東京都渋谷区渋谷2の17の5　シオノギ渋谷ビル　〒150　電話（03）477-5511

© 1982・8　PRINTED IN JAPAN

B50−2439−00(T)